学童軟式野球・チーム
活性化アンケート・まとめ

2016年8月1日

昭島少年野球連盟

学童軟式野球各連盟・各チームの皆様にお願い（アンケート協力のお願い）

学童軟式野球の指導にご尽力されている皆様に敬意を表します。

さて，昭島少年野球連盟では，１０年ほど前から野球チームに入る子どもの数が減り始め，最近では，チームの維持が困難なケースも出てくる状況になっています。

もちろん，日本全体の児童数の減少や各チームの置かれた地域特有の事情もあろうかと思いますが，サッカーチームも含め，押しなべてチームスポーツを行う子供が減少しているように思えてならない今日この頃です。

そこで，各チームの皆さんに以下のアンケートに答えていただくことで，その打開策のヒントが見つけられないかと考えています。選手確保に効果的な方法，または，その逆の場合も含めて，各チームの経験をお教えください。

お忙しいところ大変恐縮ですが，ご協力いただきますようお願い申し上げます。

２０１６年5月２３日

アンケート内容（各連盟宛）

１．支部名など（２０１６年５月現在）

①区市町名：　②傘下チーム総数：　③傘下チームの選手数合計と学年ごとの選手数

④支部全体の児童数（小学生の数です。概数でかまいません）：

２．選手総数の２０１１年からの推移（毎年５月頃）

２０１１年：　２０１２年：　２０１３年：　２０１４年：　２０１５年：　２０１６年：

３．連盟として，選手確保のために力を入れていることは何ですか。（いくつでもお書きください）

４．選手を増加，または，選手数を維持させる効果的な方法は何だと思いますか。

５．（４の質問の代わりに）選手減少の原因は何だと思いますか。

６．チーム維持のために，上部団体（各地区の学童野球連盟や，東京都軟式野球連盟など）やプロ野球団体（ＮＰＢ）にしてほしいことはありますか。

７．その他，書き足りないことがあればお書きください。

アンケート内容（各チーム宛）

１．チーム名など（２０１６年５月現在）

①区市町名：　②チーム名：　③チームの選手総数と学年ごとの人数：

④加入対象とする選手の通う主な学校名とその学校の児童数（概数でかまいません。学校単位での対象地域でない場合は，地域名でも結構です）：

⑤チームの地域での位置づけ（自治会所属とかクラブチームであるとかです）：

２．選手総数の２０１１年からの推移（毎年５月頃）

２０１１年：　２０１２年：　２０１３年：　２０１４年：　２０１５年：　２０１６年：

３．選手確保のために力を入れていることは何ですか。（いくつでもお書きください）

４．選手を増加，または，選手数を維持させる効果的な方法は何だと思いますか。

５．（４の質問の代わりに）選手減少の原因は何だと思いますか。

６．チーム維持のために，上部団体（各地区の学童野球連盟や，東京都軟式野球連盟など）やプロ野球団体（ＮＰＢ）にしてほしいことはありますか。

７．その他，書き足りないことがあればお書きください。

「学童軟式野球・チーム活性化アンケート」をまとめるにあたって

はじめに，お忙しい中，このアンケートにご協力いただいた各連盟・各チームの皆様に御礼申し上げます。そして，できうる限りこの「まとめ」を皆様にお渡ししたいと考えています。この冊子が当連盟だけでなく皆様のお役に立つことになれば，大変嬉しく思います。

さて，この「まとめ」を作成するにあたって，基本的には，いただいた回答をそのまま掲載していますが，スペースの関係上，回答のない項目は省かせていただく操作をし，選手数は表にまとめさせていただきました。なお，質問文のわかりにくさからか，回答に明らかに齟齬（そご）が見られる場合がありましたが，そのまま掲載しました。

このアンケートのまとめは，何人もの目を通したわけではないため，入力・校正ミス等，不十分な点があるかもしれません。お気づきの点がありましたら，当連盟にお知らせください。

このまとめが，皆様にとって，少しでもお役に立てるものになりましたら幸いです。

なお，このまとめは，当連盟ホームページにて公表するとともに，可能な限り上部団体（東京都軟式野球連盟）やプロ野球関係団体に見ていただきたいと考えておりますので（すでに了解をお願いしましたが），協力をいただいた各連盟・各チームの皆様におかれましては，ご承知おきください。

2016 年 8 月

昭島少年野球連盟　会長　　福本道夫

各連盟の回答（昭島支部を除き五十音順）

【大田支部・城南】

チーム総数	選手数（現在）555						選手数推移					
	6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
高学年 24 4 年以下 16	134	153	125	91	43	9	約 650	約 650	約 650	約 600	約 580	555

〇選手確保のために力を入れていること

＊低学年を対象にした野球を楽しむイベントを各地域ごとに巡回して行っています。

2013 年 7 月：野球はたのしい in 萩中　　2014 年 7 月：野球はたのしい in 平和島

2015 年 9 月：野球はたのしい in 多摩川緑地

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

＊連盟で行える即効性のある方法はないと思います。

＊各チームでの地道な勧誘が，やはり一番影響があると思います。

＊連盟としては，その活動に対してグランド提供等の援助が必要と思われます。

〇選手数減少の原因は　　＊少子化と外で遊ぶ子供たちが減っていると思います。

【小金井支部】

チーム総数	選手数（現在）約 280						選手数推移（上段 3 月時，下段 11 月時）					
	6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
8 団体	70	60	60	90			339	322	285	274	277	264
21 ﾁｰﾑ							414	381	344	346	338	

〇選手確保のために力を入れていること

＊野球教室での一般学童の募集・低学年のＴボール教室大会の開催　＊市内掲示板へのチラシ掲載等

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

＊現役学童の保護者会での勧誘・教育委員会との連携・グランド確保（練習・試合）

＊メディア（J：COM）との連携で PR 活動

〇選手数減少の原因は

＊子供たちのスポーツ離れ（面倒くさい）　＊親の野球離れ・ボールゲームの出来る広場の減少

〇上部団体等への要望　＊有名プロ野球選手などの野球教室の充実　＊登録費の無料化　等

【国分寺支部】

チーム総数	選手数（現在）約 250						選手数推移					
	6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
10									約 310	約 280	約 270	約 250

〇選手確保のために力を入れていること　＊チームとして体験会を実施しています。連盟全体ではなし

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

＊体質改善し昔ながらの根性論での指導をやめるべき　＊指導する側にも免許 or 許可制を導入すべき

〇選手数減少の原因は　＊４の回答と同様に指導方法を改善すべきと考える。

〇上部団体等への要望

＊体験会やイベントをドンドンやって　野球は楽しいスポーツであることをアピールしてほしい

【調布支部】

チーム総数	選手数（現在）約 301						選手数推移					
	6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
10 チーム	110	48	143				487	452	437	381	295	301

〇支部全体の児童数

＊10,409 名

〇選手確保のために力を入れていること

＊低学年（4 年生以下）の連盟主催大会を実施し，低学年であっても大会，試合の経験の回数を増やす。

〇選手数増加・維持のために効果的な方法　＊野球教室

〇選手数減少の原因は

＊サッカーなど他のスポーツをする機会が増えており，相対的に野球をする児童が減っている。

〇上部団体等への要望

＊プロ野球有名選手との交流の機会を作る（イベント）

【東久留米支部】

チーム総数	選手数（現在）約 320						選手数推移					
	6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
11 クラブ 30 チーム								410	380	380	345	320

〇選手確保のために力を入れていること

・ 傘下クラブの勧誘活動に依存。連盟としては特にやっていない。

・今後は，「ティーボール」教室等を開催して，低学年の勧誘の場として活用しようと計画している。

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

・少年野球独特の悪い習慣，例えば，昔ながらの「根性的」な指導方法やお母さん達に評判の悪い「お茶当番」の廃止等の改善をして，保護者に子供を入れやすい環境整備をすること。

〇選手数減少の原因は

・先ずは，少子化。

・次のサッカーチームとの競合。サッカーの場合は，幼稚園の時から指導者を派遣して勧誘の素地を作っている。

・5 年生後半から，進学塾との競合

〇上部団体等への要望

・指導者講習会等の講師派遣。通常では，講師料が高くて依頼できない。

【武蔵村山支部】

チーム総数	選手数（現在）						選手数推移					
	6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
9												

〇選手確保のために力を入れていること

①連盟として各大会を充実させ少しでも選手が多く出場出来る様に配慮している。・各チームの事情を聞き継続していける様に。

②連盟主催大会の維持継続を基本に，既存大会以外の各種イベントへの積極参加（野球教室や古希チームとの親善試合，市主催のスポーツ関連イベント等）

③なるべく多くの選手が参加できるように，規約を時代にあったものに見直しています。（選手の登録条件の緩和等）

④地域や学校，各チームと連携をする・市内大会において参加全チームに努力賞を出して選手のモチベーションを高める

⑤礼儀についての指導の重視

⑥募集のイベント・チラシ

⑦連盟事務局として参加し，地域の少年野球活動へ貢献する（円滑な大会運営等）

⑧市内各チームから連盟事務局員が出ているので，事務局員間で勧誘方法等情報交換を行い，自チームにその情報を還元できるようにしている

⑨学区内，市外の商業施設等への募集ポスター掲示

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

①指導者の充実や球場等の環境整備，また選手保護者の負担軽減

②野球の人気を復活させること・大会等の試合を増やし，選手を表彰できる機会を増やすこと

③保護者の負担となることを無くす・人数の少ないチームは混成チームを組み，試合に出るチャンスを増やす

④親の負担をできるだけ少なくし，そこをアピールする・また，できる人ができるだけの事をやる（案外やってみれば，皆のめり込み協力してくれる）

⑤子供達の立場に立ち，野球の楽しさを伝えること（イベント・野球教室の開催（プロ野球選手参加））

⑥市内のチームを自由に選べる　　・女子チームなどを作る新たな取組み

⑦市内合同の野球体験教室を開催　　・今回のアンケートのように他チームの勧誘活動を情報提供

⑧1 年生，入学時点での勧誘　・親の負担軽減（ジャグ当番等）　・体験会の定期開催・各種イベント毎による子供達の盛り上げ

〇選手数減少の原因は

①野球の楽しさ，体力向上と共に成長過程でとても良いという事をもっとアピールして頂きたい。

②プロ野球自体の人気低迷（イメージダウン）や保護者の若年化（サッカー世代）

③遊び，趣味，スポーツの多様化，ﾌﾟﾛ野球中継の減少，野球ができる場所及び環境が減った

④サッカーなどの他スポーツへの流出・保護者の負担が多いことによる敬遠

⑤野球関連のテレビ（プロ野球中継，珍プレー集，アニメなど）が少ない・子供が野球をして遊べる場所が少ない

⑥野球の知名度の低下，日本野球のスター選手がいない（メジャーリーグに行ってしまう），親の負担が多い

⑦その他のスポーツの台頭

⑧他スポーツのメジャー化（特にサッカー）・（野球に関わらずだが）親が自分の負担増になる為，自分の子供にスポーツをやらせたがらない

⑨親の負担（金銭面，運営フォロー⇒ジャグ，弁当，車出し等）に対する理解・練習時間が長い⇒他の事が出来ない　（塾，家族で出かける，他の習い事等）

〇上部団体等への要望

①プロ野球選手による交流（野球教室等）・ジャビット杯争奪大会の様な三多摩・都下チームでの大会。

②ＮＰＢに関して都道府県の仕切りがあると聞くが，当市において人気の高い西武ライオンズ球団とのイベント機会があれば選手はもっとプロ野球が好きになる。・当市は所沢と隣接しているし，一番身近な球場は西武ドームなのだから。

③有名な選手に来てもらい，直に野球を教えてもらう事・プロ野球の中継を増やすこと・ＷＢＣ等の国際大会を増やすこと

④昔のように毎日テレビでプロ野球中継（巨人戦）を復活してほしい

⑤少年野球イベントへの参加（野球教室等）

⑥プロ選手などが，もっと野球教室などイベントを開催して欲しい

⑦チームに入っている子ではなく，全く野球経験のない子に対する親子ぐるみのイベントを企画立案する

⑧未加入の子供達に野球を好きになってもらう為のイベント開催，学校訪問（各団体）・野球というスポーツ自体の普及活動（今の子供はアウト，ストライクの意味も知らない）

○その他

自チームもこの数年選手の減少に悩んでいます，そこでチームでも会議を行い意見の中で「個人やチーム単独で声をあげるのではなく，組織で動かなければダメ」というのもありました。今回のこのアンケートは大事な一歩だと思いました。

【昭島支部】

チーム総数	選手数（現在）150						選手数推移					
	6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
7	44	32	32	29	6	7	220	190	165	164	151	150

○選手確保のために力を入れていること

＊ジャイアンツ・アカデミー講師による年長～小学 4 年生対象の野球教室の開催（年１回）と，チラシ（2017 年度は 2000 枚）を作ったり・市の広報に掲載したりしての大々的な宣伝。

＊野球教室開催の機会があれば，積極的に参加する（予算的に自力開催は不可能）。例年，年間に２回程度は機会がある。

＊昭島市民球場を使っての大会開催。　＊人数が揃わないチームの合同チームでの参加容認。

＊市内の大会で，上部大会がない大会について，女子については１学年下の学年での出場を認める。

○選手数増加・維持のために効果的な方法

＊子ども同士のつながり・子どもたちの仲間づくり　＊親も野球が楽しめる環境づくり

＊野球をやっている姿・子供のユニフォーム姿を，地域で目立たせること

＊野球指導者の養成（幼稚園・保育園・小学校・各チームのコーチ）…将来的に目指すべき課題

○選手数減少の原因は

＊学校教育で，小さいボールを使う運動（野球）を教えなくなったことから，野球をする親が減った～子供と親の遊びの中で野球が行われなくなった。

＊児童数自体の減少。　＊児童の行うスポーツの多様化。

＊野球の顔ともいうべき NPB に，観客減少や観客確保に向けての危機意識が低いと思う。

○上部団体等への要望

＊NPB の現役選手が，各チームの意ユニフォームを着て，シーズン中でも一般学童や学童チームの選手に触れる（指導せずに握手だけでもよい）機会を積極的に作ってほしい。できれば球団と各選手との契約にその旨を明記してほしい。

＊指導者講習会を開催してほしい。野球技術だけでなく，怪我対策やチーム運営を含め多角的な内容も指導してほしい。

＊（幼稚園・保育園を含めた）学校教育における野球指導者の育成

各チームの回答（支部名の五十音順，各支部でのチーム名の五十音順：昭島支部を除く）

【あきる野・秋留台キングス】

選手数（現在）32						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
2	13	11	5	1		45	50	43	39	35	32

〇加入対象学校名と児童数

東秋留小約 360 名・前田小 360 名・屋城小 180 名

〇チームの性格　少年軟式野球チームとして，1971 年から活動

〇選手確保のために力を入れていること

＊カラー写真付ビラを作成し，4 月入学式日・9 月始業式日・1 月始業式日の年 3 回体験会実施。（参加者全員に，球団Ｔシャツ 1 枚，ニューボール 1 球，お菓子等をプレゼントしております)

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

①兄弟がいる児童を狙う，②女子児童を狙う，③卒団生の児童を狙う。

〇選手数減少の原因は　①児童数の減少，②野球離れ

〇上部団体等への要望

※プロ野球団体に無料にて，野球教室又は，握手会・サイン会を実施してほしい。

【あきる野・増戸少年野球クラブ】

選手数（現在）36						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
10	2	6	12	3	3	56	54	49	45	43	36

〇加入対象学校名と児童数　あきる野市立増戸小学校　児童数約 540 名(90 名×6 学年)

〇チームの性格　クラブチーム

〇選手確保のために力を入れていること　体験練習の実施

〇選手数増加・維持のために効果的な方法　強いチームの育成

〇選手数減少の原因は　特になし

〇上部団体等への要望

プロ選手を招いての野球教室(なくなってしまったが，ジャビット杯開会式は大変よかったとおもう)

【青梅・河辺ジャガーズ】

選手数（現在）12						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
0	3	2	3	3	1	38	33	36	24	18	12

〇加入対象学校名と児童数　青梅市立霞台小学校 448 名，青梅市立第三小学校 758 名

〇チームの性格　クラブチーム

〇選手確保のために力を入れていること

ホームページの製作，定期的な野球体験教室，小学校・店頭などへのポスターの掲示

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

友達の多い父母とガキ大将からの展開です。特に母親の影響は大きいです。

母親が子供を預けておいて面倒ではないと思わせられること。

〇選手数減少の原因は

親世代がゲーム世代になってきているので，子供が外で遊ばなくなってきた為。

野球をやるには高い道具を揃えないと行けないという先入観。

当番が面倒という先入観。地域サッカー拡大の影響。

〇上部団体等への要望

プロ野球選手による野球教室の回数を増やす。　　準決勝，決勝戦は各地域の一番良い球場で行う。

【青梅・ファイヤーホークス】

選手数（現在）35						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
9	8	7	0	9	2	27	26	22	28	31	35

〇加入対象学校名と児童数

一小，二小，三小，霞台小，友田小，若草小，河辺小，あきる野（屋城小，東秋留小）

チームの特質から，特定の学校はない状況です。

〇チームの性格　　上記に係ることでもあるかと思います。

〇選手確保のために力を入れていること

発足時から“メイン小”という既成概念を取り除いてきました。

実際，そうせざるを得なかったです。ちなみに当時は満足なグランドもありませんでした。その中で，たとえ遠方からでも足を運んでもらうためには

・“良いチーム”であること（解釈はいろいろ…）　・“行きたい”“行かせたい”チームであること

・親の当番なし（負担なし）　・スタッフへのお構いなし。

・決めごとなし。　・とにかく，ないないづくし。

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

・上記に係ると思いますが…。　・友が友を呼んでくること。親が親を呼んでくること。

・コーチの人選（誰でもいい訳ない）

・強い，勝つということ。（最後にこれを忘れてはならないと思っています。）

〇選手数減少の原因は

・３,４（上記２項目の回答）の反対　・親の当番，お茶当番，送迎

・チームカラー，指導者の資質　・万年，弱いこと

【小金井・小金井アトムズ少年野球クラブ】

選手数（現在）36						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
7	13	5	7	2	2	43	42	46	46	44	36

〇加入対象学校名と児童数　　小金井市立東小学校　児童数　約 530 名

〇チームの性格　　クラブチーム

〇選手確保のために力を入れていること　　挨拶を励行することで団のイメージアップを図っています。

〇選手数増加・維持のために効果的な方法　　幼稚園児・保育園児への宣伝活動

〇選手数減少の原因は　　幼稚園では，サッカーを派遣会社から講師を招いて遊び･練習をしています。

〇上部団体等への要望

小学校で練習できる時間が限られているので，練習できる公園若しくは学童用グラウンドの増設要望。

【小金井・小金井ビクトリー】

選手数（現在）53						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
11	15	14	13			52	50	54	56	55	53

〇加入対象学校名と児童数　　本町小学校　450 名　小金井市第 2 小学校　470 名

〇チームの性格　　クラブチーム

〇選手確保のために力を入れていること　　低学年に T ボール大会　　学校でのチラシ配り

〇選手数減少の原因は　　野球を危険なスポーツと思っている。(バット等)　　ルールが難しい

〇上部団体等への要望　　野球が楽しいスポーツであるアピール

【小金井・小金井三小メッツ】

選手数（現在）32						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
10	8	7	6	1		62	48	46	35	35	32

〇加入対象学校名と児童数　　学校名：小金井市立小金井第三小学校　児童数：724 人

〇チームの性格　　クラブチーム

〇選手確保のために力を入れていること

a.勧誘チラシ配布，既存メンバーの友人等を中心とした個別勧誘，ティーボール大会等の勧誘イベントを開催し，事前調査で興味がありそうな子を積極的に勧誘

b. 既存入部選手の母から未入部の子の母への声かけ

c. ホームページ，SNS（Facebook）の積極活用，情報発信

d. 各家庭の負担を極力減らす。(お茶当番など)

e. 新入部員の初期経費軽減のため道具やユニフォーム，練習着などをリサイクル。ストックし，新入部員へ。

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

a.選手の資質・意欲・家庭環境等を見定めた個別勧誘

b.楽しんでもらい自発性を伸ばす（楽しく，上達・成長が実感できるような指導，褒める）

c.やはり強くなり，試合に勝てるようになることは必須だと考えます。

d.地元ケーブルテレビ等で，試合などの放送し学校などでの話題となること。

e.サッカー入部児童は増加傾向にあるため，サッカーに優る魅力。

〇選手数減少の原因は

a.サッカー等他の選択肢の増加，野球放送が無くなり知名度の低下，児童数の減少。
b. 野球が手軽に出来る場所の減少，野球用品の高額化，ルールの複雑さ（子供には難しい）。
c. 野球＝指導者の怒声のイメージ。子供が関心があっても親が入部を止める。
d.野球放送が無くなり，興味を持たなくなった，ルールを覚える機会が無くなった。
e.サッカー経験者の親御さんが増えて，野球経験者より多くなっている。
f.各家庭の環境。（休日は家族で過ごしたい，旅行をしたい，仕事等で土日のサポートができない等）

〇上部団体等への要望

a.オフシーズンに現役有名選手が参加するイベント（野球教室等）を地区毎で開催
b.プロ野球放送が無くなったので，定期的なプロ野球チケット（西武ドーム，東京ドーム，神宮）配布
c. 日体教・全軟連・都軟連には，指導員の向上育成のため，公認指導員・公認コーチの認知に更につとめてもらいたい。

〇その他　a.他のチームで行っている選手獲得・維持の良い方法などを Feedback して下さい。

【小金井・サンライターズ】

選手数（現在）30						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
1	9	8	12			30	30	30	30	35	30

〇加入対象学校名と児童数　小金井市立第一小学校　約６００名
〇チームの性格　クラブチーム
〇選手確保のために力を入れていること　体験会の開催
〇選手数増加・維持のために効果的な方法　子供同士の声かけ
〇選手数減少の原因は　子供同士が外で遊ぶ場が少なくなった。
〇上部団体等への要望　プロ野球選手（現役選手・コーチ）による野球教室

【小金井・緑小ユニオンズ】

選手数（現在）40（女子 7）						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
2	7	5	11	5	3	87	82	70	63	52	40

〇加入対象学校名と児童数　**小金井市立　緑小学校**
〇選手確保のために力を入れていること
＊学童や市の行事での勧誘ビラ配り　＊新入生などを対象にしたＴボール大会
〇選手数減少の原因は　＊子供の総数の減少　＊親が当番などの負担を嫌がって子供の入部を勧めない
〇上部団体等への要望
去年もありましたが，東京ドームでのプロ野球の試合前のグランドでのノックなど

【小金井・南小レッドイーグルス】

選手数（現在）42						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
9	10	7	12	3	1	41	37	35	48	50	42

〇加入対象学校名と児童数　　南小学校　485 名

〇チームの性格　　クラブチーム

〇選手確保のために力を入れていること

・勧誘イベント（Ｔボール等）の定期的な開催と保護者説明会

・魅力あるチームづくり（指導者育成，活動内容充実　等）

〇選手数増加・維持のために効果的な方法　　・魅力あるチームづくりと積極的な勧誘

〇選手数減少の原因は

・保護者が負担を感じること（イメージ）。

・野球チームへ子供を参加させることへの魅力を感じていないこと。

〇上部団体等への要望　　・学童野球に参加することの魅力の積極的なＰＲ活動

〇その他

・2020 年に東京オリンピック・パラリンピックが開催され，野球も種目として復活することから，野球への魅力や集団活動への参加の意義などを積極的にＰＲしていただけたらと思います。

・また，選手のコミュニケーション能力向上施策の一環として，野球英語の普及活動を推進されたらどうでしょうか。小学校からの英語教育も本格化していくと思いますので，野球への魅力の向上策としてお考えいただけたらと思います。

【立川・上砂ファイターズ】

選手数（現在）38						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
6	11	9	9	1	2	36	41	34	28	34	38

〇加入対象学校名と児童数　　上砂川小学校　児童数　約 650 名

〇チームの性格　　クラブチーム

〇選手確保のために力を入れていること

＊1 学期に 1 度，全校生徒への勧誘チラシ配布及び体験会の実施

＊父親へのコーチ参加の参加呼びかけ及び毎月 1 度のコーチ会議開催

＊お茶当番の廃止　　＊年 1 度野球用具のリサイクル販売（全品 1 点 100 円）の実施

＊親子試合・記録会等レクリエーションの開催　　＊弟妹の勧誘

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

＊口コミ　　＊継続と変化　　＊子供，父兄と一緒に楽しむ

〇選手数減少の原因は

＊サッカーの方が身近なスポーツになってしまった事

＊他スポーツに比べ野球は初期投資費用がかさむ事

＊チーム監督・代表者の交代がスムーズにいかなかった場合

＊父親がサッカー経験者の世代になって来た事　　＊屋外での活動に否定的な保護者が増えた事

〇上部団体等への要望

＊地上波でプロアマ問わず，野球専門の無料のテレビチャンネルを開設して欲しい。

＊近隣の公園・広場などに遊びで野球ができる環境を整えて欲しい。

＊学童～プロまで指導者へのライセンス制度を導入してはどうでしょうか？

＊子供達にとって身近である中学生・高校生（学校・クラブチーム問わず）の野球チームとの交流（野球教室の開催など）

【立川・ジュニアスターズ】

選手数（現在）24						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
6	2	11	1	4	0	―	―	39	33	34	24

○加入対象学校名と児童数　立川二小，立川五小で対象人数は約 1200 人

○チームの性格　立川市少年野球連盟所属

○選手確保のために力を入れていること

・春，秋 2 回の学校での体験会実施　・OB を含むお母さんからの紹介　・兄弟の勧誘

○選手数増加・維持のために効果的な方法

・学校の校庭をもっと多くの時間利用させてもらい地域にアピールできる場を広げる。

○選手数減少の原因は

・市内公園での野球を禁止する行為。　・プロ野球中継の減少　・野球の国際試合の少なさ

○上部団体等への要望

・上記の通り，国際試合を多くやっていただき日本の野球が世界のトップにあることを広くアピールすること。

・少年野球の練習の場をもっと確保してほしい。　・中学，高校での女子選手の登用。

【立川・立川メッツ】

選手数（現在）50						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
14	7	14	9	3	3	―	―	―	―	34	44

○加入対象学校名と児童数

立川市立第十小学校：346 名，立川市立南砂小学校：333 名　(共に 2015 年 5 月現在)

○チームの性格　クラブチーム

○選手確保のために力を入れていること

・学校での加入促進チラシの配布　・所属選手のよる児童同士、親同士の声掛け

・チームホームページの充実

○選手数増加・維持のために効果的な方法　・地域での活動

【立川・立川レイズ】

選手数（現在）35						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
7	10	3	7	6	2	21	28	27	28	28	35

○加入対象学校名と児童数　立川 4 小，立川 1 小　ともに 450 名位。

〇チームの性格　　クラブチーム

〇選手確保のために力を入れていること　　学校にチラシ配布，親のロコミ，下部組織の創設

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

＊今年から当チーム入部前の子供に野球体験を目的とした下部組織を作った。
そこに上記選手数の他に 11 名が入部。会費なし，月 2 回 2 時間位のボール遊び的な活動。野球という競技を知らない世代のための体験を目的とした組織を作ったところ，かなりの人数は集まった。それがそのままチームに入部して貰うよう継続して活動中。

〇選手数減少の原因は　　＊野球の不人気，親が当番等を敬遠

〇上部団体等への要望

野球の人気回復。子供の人数が減ったから少なくなったという話も聞くが，サッカー等他のスポーツでは増えているという話も聞く。子供の数だけの問題ではないと思うので，かなりの危機感を持っている。上部組織については，その認識を我々と共有して人気回復のための行動して欲しい。（立川の連盟はかなり理解があると思う）

【多摩・永山ペガサス】

選手数（現在）24　中学部 15						選手数推移（中学部も含む）					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
12		12				45	44	48	44	41	39

〇加入対象学校名と児童数

多摩永山中⇒１１名，聖ヶ丘中⇒２名，その他の中学校⇒２名，永山小⇒１７名，北諏訪小⇒２名，その他の小学校⇒５名。

〇チームの性格　　クラブチーム

〇選手確保のために力を入れていること

①保護者からのロコミ勧誘　　②年数回の体験入部会の実施
③ＨＰによる活動近況報告などをこまめに行う

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

①入部勧誘のちらし配布，ポスターの掲示
②保護者会を実施し，保護者の希望，要望などを聞き，クラブ運営方針とすり合わせて検討改善する
③ＨＰを活用し，クラブチームの特徴，活動の近況などを公開する

〇選手数減少の原因は

①塾，習い事をする小中学生が増えているのでは
②スポーツを好む小中学生が減り，室内遊びなどに変わってきているのでは
③好むスポーツジャンルが多様化し，少年野球人口が減少しているのでは

〇上部団体等への要望

①大学生，実業団などの選手による実技披露（シートノック，模範試合など）
②実業団，プロ野球選手及び指導者による野球教室開催

【調布・杉森クラブ】

選手数（現在）14						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
7		5		2		22	22	22	19	15	14

○加入対象学校名と児童数　　杉森小・布田小・染地小　1,366 名名

○選手確保のために力を入れていること　　野球教室（体験会）の定期開催

○選手数減少の原因は

＊子供のスポーツ，レクリエーションの多様化（サッカー，ミニバスケット，ソフトボール，ゲーム，旅行など）

○上部団体等への要望

＊プロ野球の選手と交流する機会をもっと増やしてほしい。

【調布・調布サンライズ】

選手数（現在）46						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
13	13	7	8	5		63	46	48	54	55	46

○選手確保のために力を入れていること

＊野球教室の開催（小学校にて）。　　＊体験入部（土，日，祝日，随時）。

○選手数増加・維持のために効果的な方法　　＊上記野球教室や体験入部を継続すること。

○選手数減少の原因は

＊親が興味ない。　　＊お茶当番など親が面倒くさがる。

＊子ども同士の勧誘が思うようにできない。　　＊少子化の影響も。

【調布・調布ディアーズ】

選手数（現在）37						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
						36	34	36	39	38	37

○選手数増加・維持のために効果的な方法

＊子ども同士の口コミ。　　＊親，特に母親のつながりが強いと思います。

○選手数減少の原因は　　＊プロ野球の低迷

○上部団体等への要望

＊野球教室の開催

＊プロの選手が野球教室をしてくれると嬉しいと思います。

【調布・調布メンパース】

選手数（現在）56						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
						62	54	58	55	58	56

○選手確保のために力を入れていること　　＊年度当初，体験会を開いている。

○選手数増加・維持のために効果的な方法　　＊野球の魅力，楽しさを伝えること。難しいです。

○選手数減少の原因は　　＊放課後（学校終了後）に子ども同士で遊ぶ時間が無くなっている。

○上部団体等への要望　　＊野球教室を通じてプロ野球選手との交流を作ってもらいたい。

【調布・TOHO パイレーツ】

選手数（現在）52						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
						55	60	72	58	63	52

○加入対象学校名と児童数　　調布桐朋小学校，国立桐朋

○選手確保のために力を入れていること

＊野球教室　　＊校内ポスター　　＊チラシ配布

○選手数増加・維持のために効果的な方法

＊ご父兄様に対する学童野球説明　　＊学校にての野球教室

○選手数減少の原因は

＊積極的に学童野球案内を努力していない。

○上部団体等への要望

＊学童野球の素晴らしさのアナウンスを積極的にお願いしたい。

【調布・緑ヶ丘ジャイアンツ】

選手数（現在）30						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
						60	50	45	40	35	30

○選手確保のために力を入れていること　　＊定期的に野球教室を実施

○選手数増加・維持のために効果的な方法　　＊全員を試合に出場させる

○選手数減少の原因は　　＊サッカー人気

○上部団体等への要望　　＊現役の選手による野球教室

【西東京・泉ベアーズ】

選手数（現在）17						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
5	9	0	1	2	0	35	30	27	25	21	17

○加入対象学校名と児童数　　住吉小学校　300 名

○チームの性格　　西東京市軟式野球少年部所属のクラブチーム

○選手確保のために力を入れていること

学校でのポスター掲示，年１回実施している泉ベアーズ祭り

○選手数増加・維持のために効果的な方法　　既所属選手のご父兄による口コミ

○選手数減少の原因は　キャッチボールができない地域の環境，子供の人数減少

〇上部団体等への要望　子供たちのプレー(試合，練習など)をメディアで紹介する機会を増やして欲しい

【西東京・けやきスラッガーズ】

選手数（現在）23						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
6	3	10	4	0	0	？	13	13	17	28	23

〇加入対象学校名と児童数　　西東京市立けやき小学校，児童数約 600 名

〇チームの性格　　地域チーム（自治会未所属）

〇選手確保のために力を入れていること　　ホームページ，チラシ配布，小学校での野球教室

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

健全なチーム運営，野球人気，チームの知名度，学校・地域との協力

〇選手数減少の原因は

野球人気の低迷，習い事の多様化，親の過保護？（野球は危険なスポーツという扱い）

〇上部団体等への要望

各チームの努力だけではなく，各地区の野球連盟での対策，チーム同士での協力が必要だと感じております。

【西東京・東伏見ファイターズ】

選手数（現在）16						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
4	4	5	2	0	1	47	42	34	27	22	16

〇加入対象学校名と児童数　　**東伏見小学校**　360 名

〇チームの性格　　自治会所属

〇選手確保のために力を入れていること

＊チームにて野球教室実施（公式戦が入るため不定期）

＊学校へ加入チラシを配布依頼　　＊児童，家族への口コミ

＊児童館，飲食店，バッティングセンターなどへの選手募集ビラ貼り

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

＊地域を跨いだチームを作成し，人数の確保をすることで試合が出来る。

＊試合をすることで，野球がうまくなり，勝敗に関係なく心が鍛えられ，野球が好きになると考える。

〇選手数減少の原因は

＊公園でバットやボール（野球）が使用できない。サッカーには特にしばりがない。

〇上部団体等への要望

＊ＮＰＢへ…プロサッカーと同様に，各地方（各県）にプロ野球チームを作ってもらいたい。身近に野球があることで野球離れも減るのでは…。

【西東京・保谷ストロンガーズ】

選手数（現在）45						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
6	11	10	10	7	1					46	45

○加入対象学校名と児童数　西東京市立保谷小　474 名，碧山小　559 名，本町小　約 400 名

○チームの性格　保護者の会費で運営している

○選手確保のために力を入れていること　＊学校で友達を勧誘。　＊兄弟の入部　＊体験会の開催

○選手数増加・維持のために効果的な方法　＊保護者の参加

○選手数減少の原因は　＊児童数の減少　＊他の習い事との兼ね合い

○上部団体等への要望

＊子供たちの知っているプロ野球選手が着たり，球団グッズがもらえるイベント。

○その他

＊グランドの確保が難しいことや，ボール遊びの出来る公園がないことで，野球を楽しめる環境がない。そのため，野球が身近でなくなっている。

【西東京・保谷ユニバース】

選手数（現在）32						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
6	3	10	4	7	2	35	28	28	26	29	32

○加入対象学校名と児童数　西東京市立保谷第二小学校：児童数　約 470 名

○チームの性格　西東京市少年野球連盟所属

○選手確保のために力を入れていること

＊西東京市社会教育課行事の野球教室の開催（当チーム主催）

＊入学式でのチラシ（部員募集）の配布　＊近隣の児童館，コミュニティセンターでのチラシの展示

○選手数増加・維持のために効果的な方法

＊団体の活動の内容や成果が知られる事（学校での表彰等で認知度を上げる）　＊保護者間での誘い

○選手数減少の原因は

＊他競技（サッカー，バスケ，テニス et.）多様化

＊保護者の部へのかかわりを大変だと感じている様子。

○その他

＊中学校での野球部の減少

＊公園等でのキャッチボール禁止など，子供たちが気軽に野球を楽しむ場所がない。

【西東京・ホワイトイーグルス】

選手数（現在）22						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
8	2	3	2	5	2	?	21	19	17	27	22

○加入対象学校名と児童数　西東京市立柳沢小学校（児童数 444 名）　ただし，他校からの加入も可能

○チームの性格　クラブチーム

○選手確保のために力を入れていること

＊所属選手及びその保護者による知人等への勧誘

＊入団募集チラシの配布や掲示　＊チームブログへの活動内容の掲示

○選手数減少の原因は

＊気軽にキャッチボールなどができる公園や広場が少なく，野球をする機会がない。

＊プロ野球などテレビ放送の激減

【西東京・向台リトルライオンズ】

選手数（現在）24						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
5	5	8	3	3	0		24	23	19	28	24

○加入対象学校名と児童数　向台小学校　約 800 名

○チームの性格　**西東京市少年部所属**

○選手確保のために力を入れていること

＊HP の作成（連絡先の統一）　＊マンション等への掲示　＊学校でのチラシ配布

＊ティーボール大会・野球教室の開催

○選手数増加・維持のために効果的な方法　＊野球が楽しいと思わせる事。

○選手数減少の原因は

＊他のスポーツ（例えばサッカー）の台頭　＊公園でボール禁止が多い事

＊親の負担が大きい事　＊小学生などの児童の人口減少

○上部団体等への要望

＊子供にはスター選手（プロ野球）の言葉などが印象に残ります。プロ野球団体や社会人野球などの現役選手が率先して，教室などを開催したり，チーム訪問をしたり出来る環境作りも大切かと思います。

【羽村・羽村ドルフィンズ】

選手数（現在）25						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
4	5	7	4	1	4	28	23	21	22	27	25

○加入対象学校名と児童数

羽村市立栄小 395（うち選手 12），富士見小 533（11），羽村東小 361（1），松林小 202（1）

○チームの性格　クラブチーム

○選手確保のために力を入れていること

＊保護者当番の簡素化　＊体験練習日の設定を多くする。

○選手数増加・維持のために効果的な方法

＊サッカーのような上部団体（プロ）と下部団体（アマチュア）の結びつき、システム構築

○選手数減少の原因は　＊野球関係者全体の危機意識の低さ、連係不足。

○上部団体等への要望

＊NPB 現役選手と子供たちが触れ合える場をもっと作ってほしい。

＊子供に限り、プロ選手が技術指導できるようにしてほしい。

【東久留米・ウエストキング】

選手数（現在）14						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
7		5		2		22	22	22	19	15	14

○加入対象学校名と児童数　東久留米市立第十小学校，約 350 名

○チームの性格　クラブチーム

○選手確保のために力を入れていること　学校，地域での勧誘活動（ポスター等）

○選手数増加・維持のために効果的な方法

＊体験機会増　＊試合等参加機会増　＊指導者育成　＊一定レベルの指導プログラム

○選手数減少の原因は

＊少子化，サッカーを代表とするスポーツ多様化　＊野球を始めるハードルの高さ（道具，人数）

＊指導者の少なさ，指導プログラムの欠如，保護者の当番制維持

○上部団体等への要望

＊単独クラブで10 名に満たない場合は母体が複数クラブとなる合同チームとせざるを得ないが，現状では都大会等上位大会では合同チームの出場は認められていないため，合同チームで出場可能なように配慮願いたい。

＊プロ野球選手・コーチによる指導・体験機会の増

【東久留米・クラウン】

選手数（現在）41						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
12	13	8	6	2		53	56	44	46	37	41

○加入対象学校名と児童数　＊東久留米市第２小学校　600 名

○チームの性格　＊クラブチーム

○選手確保のために力を入れていること

＊父母を通じて集めてもらう。　＊幼児用の野球体験教室を行う。

○選手数増加・維持のために効果的な方法　＊お茶当番等父母の負担を極力少なくする

○選手数減少の原因は

＊サッカーは国際試合の放送が多いが，野球の場合は少ないので，子供が球に興味を示さないのでは。

○上部団体等への要望　＊毎年現役のプロ野球選手を呼んで，子供に野球教室をおこなってほしい

【東久留米・久留米スターズ】

選手数（現在）29						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
10		10	9					40	40	35	29

○加入対象学校名と児童数　南町小，東久留米市第一小，東久留米市第五小

○チームの性格　クラブチーム

○選手確保のために力を入れていること　＊市内小学校及び近隣に，選手勧誘のポスターなどを掲示

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

＊体験会などを催し，子供たちに野球の楽しさを教えていく。

〇上部団体等への要望

＊近年は選手減少のため合同チームが増えていますが，単独チームでなくても上部大会に参加できるよう計らって貰いたい。

【東久留米・滝山ジュピターズ】

選手数（現在）46						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
11	7	8	8	10	2	32	30	34	34	28	32？

〇加入対象学校名と児童数　東久留米市

〇チームの性格　クラブチーム

〇選手確保のために力を入れていること

1. 男女問わず募集している。女子だけで 13 名
2. イベントを行う（体験会や祭りなど）
3. 御父兄のご協力によるご紹介

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

地域，保護者のご協力のお陰で，当チームは維持出来ていますが，それに甘えず，野球に興味をもって楽しくプレイ出来るよう，低学年時は特に気を付けて指導しています。

〇選手数減少の原因は

子供の減少，色々なスポーツのクラブの普及（サッカー，ラグビー，バスケット，ハンドボールなど），平日に野球の出来る場所の減少

〇上部団体等への要望　場所の提供，初心者の為の野球教室など

【東久留米・野火止コンドルス】

選手数（現在）32						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
7	11	0	3	11	0	45	41	41	35	36	32

〇加入対象学校名と児童数　東久留米市立本村小学校：25 人学級/各学年 2 クラス

〇チームの性格　東久留米市少年野球連盟/東久留米市スポーツ少年団-所属

〇選手確保のために力を入れていること　＊体験会，イベントの開催

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

＊未就学児から体験参加のできるティーボール大会等の開催

＊維持に関しては保護者とのコミュニケーション

〇選手数減少の原因は

＊少子化もさることながら，異種スポーツの多様化と学校で体育推進している「ダンス」にも流れを感じます。

〇上部団体等への要望　＊ティーボール道具の寄与又は貸し出し　＊地区単位での大会開催

〇その他

＊入学からでの勧誘では遅い現状があります。未就学児からでも参加できるものを提案していかなければと感じます。

【東久留米・八幡町スピリッツ】

選手数（現在）23						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
2	5	5	8	3	0	37	22	25	26	24	21

〇加入対象学校名と児童数　東久留米第一小学校／400 名

〇チームの性格　クラブチーム

〇選手確保のために力を入れていること　＊学校での声掛け（子供とおし，親関連）

〇選手数減少の原因は　＊親への負担（お茶当番，遠征時車出し）

【東久留米・東久留米アストロズ】

選手数（現在）42　（含幼稚園児 3）						選手数推移（１年間ずれているか？）					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
	12	12	7	4	4	33	35	32	30	27	29

〇加入対象学校名と児童数　東久留米市立第九小学校　児童数約 500 人

〇チームの性格　クラブチーム

〇選手確保のために力を入れていること

＊父母のお茶当番の廃止

＊選手の勧誘活動（父母のネットワーク，イベント等での募集チラシの配布，掲示）

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

＊お茶当番など父母への負担の軽減　＊幼児，低学年生対象の体験会を毎週のように実施

〇選手数減少の原因は　＊地域に子供自体が減っている。お茶当番など父母への負担

〇上部団体等への要望　＊定期的な野球教室等子供が野球により興味を持つイベントなど

〇その他　＊選手確保には，お茶当番の廃止は，一番効果がありました

【東久留米・東久留米ハッピーズ】

選手数（現在）30						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
7	6	6	8	3		30	28	29	29	30	30

〇加入対象学校名と児童数　東久留米市第六小学校：約 350 名，他小学校から数名

〇チームの性格　クラブチーム

〇選手確保のために力を入れていること　＊保育園，幼稚園園児からのキッズ野球体験

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

＊保育園，幼稚園園児からのキッズ野球体験，母親を了承させる。

〇選手数減少の原因は

＊全体に子供の人数が減っている。　＊子供の頃スポーツをしていない親が増えている。

＊ボールで遊ぶ場所が無い

○上部団体等への要望

＊市内挙げての連盟体験のイベント開催，子供が分かるプロ現役選手の野球教室

【福生・福生ヤングジャイアンツ】

選手数（現在）32（うち女子 6）						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
4	8	9	5	6	0	34	24	23	27	29	32

○加入対象学校名と児童数　　福生第六小（児童数 427 名）

○チームの性格

福生６小児童を中心とした少年野球チーム

・６小のイベント(清掃・ＰＴＡ亀の子まつり等)に参加

・自治会イベント参加(ハロウィンイベント等協力)

・子供会お祭り山車等協力　　・公団加美平団地夏祭り出店(子供神輿・山車協力)

○選手確保のために力を入れていること

・選手保護者の理解・協力〔少年野球の現状説明等〕

・小学校の行事等に積極的な協力〔芝生清掃・ＰＴＡ亀の子まつり等〕

・小学校近隣のクリーン事業〔選手にトング・コンビニ袋を持たせゴミ拾い〕

・年８回程度のスタッフ運営会議・保護者会議開催

・チームの募集案内セットの作成・配布(近隣保育園等)

・福生連盟選手勧誘イベントに福生全チーム参加

○選手数増加・維持のために効果的な方法

・選手保護者の理解と協力〔保護者会を開き意見の聴取〕

・小学校の理解〔見学や練習の手伝いを依頼し理解を得る〕

・野球体験の実施〔子供と一緒に楽しく過ごす体験を行う〕

・現役親スタッフの理解〔自身の子供だけではなく全体を見られるように理解を得る〕

○選手数減少の原因は

・少子化　　・保護者の理解不足〔時代により保護者の子供に対する価値観の変化〕

・習い事の多さ〔学習塾・水泳・音楽・ダンス等〕

○上部団体等への要望

・現役プロ野球選手の野球教室の開催〔又は著名なＯＢプロ野球選手〕

・プロ野球観戦の招待及び試合前の球場内によるイベント参加

・少年野球チームへの運営補助金の助成〔又は大会参加費の補助〕

○その他

野球は道具を使用するスポーツで，特にサッカーに比較すると，低学年児童にとってはより難しく感じる傾向にあります。しかし，低学年児童の確保こそがチームの永続性のカギであることは言うまでもなく，低学年児童がなかなか上達しない状況であっても，保護者はもとより指導者もこれを嫌にならないで一緒に頑張る雰囲気があるチームは選手数が維持し易いのかも知れません。

【福生：福生リトル・サンズ】

選手数（現在）16						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
1	5	3	4	1	2	32	31	31	24	22	16

〇加入対象学校名と児童数　福生第五小学校 200 名位，福生第二小学校，創価小学校，草花小学校

〇チームの性格　クラブチーム

〇選手確保のために力を入れていること　ホームページ制作，地域行事に参加，体験会

〇選手数増加・維持のために効果的な方法　分かりません。私も知りたいです。

〇選手数減少の原因は　少子化や他スポーツ，習い事が増えた事かと思います。

〇上部団体等への要望　プロ野球選手(現役選手)を呼んでの野球教室。

【瑞穂・長岡モンスターズ】

選手数（現在）18						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
5	6	5	1	1						20	18

〇加入対象学校名と児童数　瑞穂第二小学校：264 名（内 9 名）　瑞穂第四小学校：473 名（内 9 名）

〇チームの性格　瑞穂町少年野球連盟所属（クラブチーム？）

〇選手確保のために力を入れていること

＊小学校掲示板に貼らせてもらう。町内会回覧板でまわしてもらう。入学式で募集案内を配る。

〇選手数減少の原因は

＊共稼ぎが増え，お茶当番等親のほうが面倒に思ってしまっている。

＊最近のゲーム等が面白すぎるのではないか？

〇上部団体等への要望

＊大学生，社会人野球，プロ野球団体が各少年野球チームに，無償で来て頂き半日くらい指導してほしい。

〇その他

＊グランドを確保することが難しい。

＊他市区のように年明けから新一部がスタートしていかないと多摩地区から都代表が出るようにはならないのではないか？

【武蔵村山・青空】

選手数（現在）42						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
12	10	11	5	1	3	？	？	？	？	？	42

〇加入対象学校名と児童数　武蔵村山第八小学校　650 人程度

〇チームの性格　学校内チーム

〇選手確保のために力を入れていること

・子供たち自身に何回も友達に声をかけさせて「どうにか練習に来てもらえるよう」に言っています

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

・まず，誰でも遊び感覚で来られる環境づくりが大切だと思います

〇選手数減少の原因は

・ＴＶ放映の減少と土日仕事の親が増えている事とお茶当番が大変だと思われている事と人に関わることが嫌いな親が子供に好きな事をさせないからだと思います

〇上部団体等への要望　・少年野球の試合などをテレビで放映したりするといいと思います

〇その他

・いま，どの公園でも「野球禁止」ばっかりで，子供が野球をやる場所もないから，やっていない子供が楽しく野球をやっている子供を見なくなって興味をもってもらえる機会が少な過ぎて選手減少につながっていると思います。いろいろな公園で野球を出来るようにして下さい。

【武蔵村山・武蔵村山市アトムズ】

選手数（現在）17						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
6	4	1	0	1	5	？	？	？	10	11	17

〇加入対象学校名と児童数　村山学園

〇選手確保のために力を入れていること

・学校での募集ビラ配り　・募集ポスター　・チームでの野球イベント　・電話，手紙での勧誘

〇選手数増加・維持のために効果的な方法　・親の口コミ，・親の協力態勢，近隣チームとの活発な交流

〇選手数減少の原因は　・親の不理解

〇上部団体等への要望　・プロチームなどの野球教育，・各地区毎の合同練習

【武蔵村山・グレートベア―】

選手数（現在）37						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
13	6	9	4	3	2	41	43	36	35	32	37

〇加入対象学校名と児童数　614 人

〇チームの性格　・武蔵村山市少年野球連盟所属チーム

〇選手確保のために力を入れていること

・部員募集チラシ作成および配布　・部員募集を目的とした家庭訪問

・部員募集を目的としたイベント企画　・日頃からの声掛け（スタッフだけでなく，保護者も協力）

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

・チームの考え※試合で勝つ事だけでなく，部員募集活動の重要性（スタッフの認識統一）が大事野球をする子供達がいなければ野球はできません。まずはそこからだと思います。

〇選手数減少の原因は

・野球のイメージが悪い⇒危険，道具（費用が負担）が多い等

・環境の悪さ⇒公園は殆ど野球禁止（サッカー・バスケ等はＯＫ）

〇上部団体等への要望

・野球教室も必要だと思うが，プロ野球選手等による野球未経験者向けのイベントを企画し野球に興味を持つ土台を作って欲しい。

○その他

・部員不足によりチーム存続危機のなか，仲間を増える事を信じ日々練習に励んでいる野球が大好きな子供達がいます。上部団体を含め野球人口を増加するために何ができるか，野球に携わる者が目を向けるべきだと思います。

【武蔵村山・武蔵村山サンダース】

選手数（現在）19						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
5	5	2	6	1		28	20	25	18	19	19

○加入対象学校名と児童数　児童数　300 人

○チームの性格　クラブチーム

○選手確保のために力を入れていること　・体験練習の実施

○選手数減少の原因は

・スポーツや習い事の選択種が増えた（サッカー，バスケットボール，ダンス等）

・子供が野球を知らない　・子供が野球をやりたくても親が賛同してくれない

○上部団体等への要望

・子供たちが知っている現役プロ野球選手による，野球教室の開催

・市への要望になってしまいますが，壁当てやキャッチボール可能な公園の設置

【武蔵村山・新小鳩】

選手数（現在）21						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
8	5	3	3	2		？	？	？	15	16	21

○加入対象学校名と児童数　700 人位

○チームの性格　・武蔵村山市では基本的に学校単位での活動となっています

○選手確保のために力を入れていること

・毎月定期的に体験会を実施しています　・レクリエーションの複数回の開催

・学校にお願いして，ポスターの掲示，チラシの配布をしています

○選手数増加・維持のために効果的な方法

・野球の人気を復活させること（プロ野球のテレビ中継の増加）

○選手数減少の原因は　・遊び，趣味の多様化及び野球ができる場所と環境が減ったこと

○上部団体等への要望　・ＷＢＣの大会を増やすこと

【武蔵村山・隼】

選手数（現在）26						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
7	4	8	6	0	1	？	？	45	38	30	26

○加入対象学校名と児童数　武蔵村山第二小学校　420 人

〇チームの性格　自治会所属

〇選手確保のために力を入れていること　・学区内，市外商業施設，公共施設への募集ポスター掲示

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

・1年生，入学時点での勧誘，・親の負担軽減（ジャグ当番等）　・体験会の定期開催

・各種イベント毎による子供達の盛り上げ

〇選手数減少の原因は

・親の負担（金銭面，運営フォロー⇒ジャグ，弁当，車出し等）に対する理解

・練習時間が長い⇒他の事が出来ない（塾，家族で出かける，他の習い事等）

〇上部団体等への要望

・未加入の子供達に野球を好きになってもらう為のイベント開催，学校訪問（各団体）

・野球というスポーツ自体の普及活動（今の子供はアウト，ストライクの意味も知らない）

【武蔵村山・武蔵パンサーズ】

選手数（現在）25						選手数推移					
6年	5年	4年	3年	2年	1年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
5	5	2	6	7		27	29	30	28	25	25

〇加入対象学校名と児童数　武蔵村山第一小学校　全児童数372人

〇チームの性格　・武蔵村山第一小学校の単独チーム

〇選手確保のために力を入れていること

・野球体験会を定期的に行う，・保護者のやる事を極力減らす・地域や学校と常に連携する事

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

・チームの雰囲気を明るく，楽しく常に保つようにしています

〇選手数減少の原因は　・保護者の強制的な役割分担　・サッカーなどの他スポーツへの流出

【武蔵村山・ファイターズ】

選手数（現在）22						選手数推移					
6年	5年	4年	3年	2年	1年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
						？	？	？	20	14	22

〇選手確保のために力を入れていること　・体験，チラシ配り

〇選手数増加・維持のために効果的な方法　・子供に野球の楽しさを学ばせる事が大事だと思う

〇選手数減少の原因は　・野球出来る環境が少ない

〇上部団体等への要望　・体験もしくは連盟など見学できるといいと思う

【武蔵村山・武蔵ライオンズ】

選手数（現在）40						選手数推移					
6年	5年	4年	3年	2年	1年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
11	8	9	12			42	46	50	46	48	40

〇加入対象学校名と児童数　市内学校学区のみ（市外からは制限無）

〇チームの性格　　学校単位

〇選手確保のために力を入れていること　　・体験会（随時）

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

・強いチームを作ること（楽しい野球でも勝てなければ子ども達は楽しくありません）

〇選手数減少の原因は

・チームの指導方針がはっきりしていない（目指すところの位置づけ）

・保護者の考え方（チーム方針の理解）

〇上部団体等への要望　　・学童野球に求められることの統一性

【昭島・昭島ビクトリー】

選手数（現在）17						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
12	2	2	1								17

〇チームの性格　　クラブチーム

〇選手確保のために力を入れていること　　在団保護者の口コミ

〇選手数減少の原因は　　口コミにのみ頼っていた

〇その他

＊現 6 年生が来年卒団して新入部員が入ってこないと，チーム員 5 名となってしまう。

＊現在 5 年以下に関しては，チーム事情が似ている田中パイレーツと合同チームで練習を行い，5 年，4 年試合に挑んでいる状況で，この先チームの存続の為にもコンスタントに部員を増員して行かなければならないと思います。

＊今までは，在団生保護者の口コミに頼っていただけ，特に増員を強調してこなかった所はあります。

＊今回開催の野球教室参加者の保護者と話をした中で，ビクトリーの場合練習場所が田中小，拝島三小等通うのに距離があるなどで考え込んでしまう方がおられ，スタッフが引率する事，玉小や，くじら等でも練習していることなど説明しました。

＊後は取り次いでくれた在団生保護者の方に，遊びがてらビクトリーの練習に来てくれるように誘って頂くところです。

＊これからはチームで常時未経験者が体験に来て頂けるような体制を作って行かなくてはいけないと思います。

＊今まで以上に新入部員増員を課題に掲げてチームを回して行かなければと思います。

＊また，部員募集のチラシもあるのですが，ページ数を増やし（4 ページくらい）何か楽しそうだなと思ってくれるようなものが出来ればと思います。

【昭島・昭島美堀メッツ】

選手数（現在）21						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
4	10	1	6			20	25	22	21	23	21

〇加入対象学校名と児童数

拝島第二小学校 500 名（18 名），つつじが丘小学校 463 名（1 名），西砂小学校 606 名（2 名）

○チームの性格　クラブチーム

○選手確保のために力を入れていること

①選手募集ポスターの掲示，チラシの配布　②選手保護者の口コミ募集

③ホームグラウンドでの体験募集

○選手数増加・維持のために効果的な方法　①前３と同じ　②市報等の媒体での募集

○選手数減少の原因は　①身近な公園等のボール使用制限　②ホームとなる学校等のバックアップ体制

○上部団体等への要望　①野球教室　②講演会

【昭島・昭島ヤングライオンズ】

選手数（現在）19						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
1	6	5	5	1	1	38	40	38	29	30	19

○加入対象学校名と児童数　拝島第一小学校／145 名

○チームの性格　クラブチーム

○選手確保のために力を入れていること

＊対象小学校のスポーツチームで協力し，年一回の体験会を実施している。

＊選手に学校の友達を誘うように常に働きかけをしている。

＊保護者会等で保護者にも選手集めの協力をお願いしている。

○選手数増加・維持のために効果的な方法

○選手数減少の原因は

＊空き地などが少なく，学校や公園の規制が厳しくなったこと。

＊小学生ぐらいの子どもを持つ親が子供のころから趣味が多様化してきたこと。

【昭島・昭島リトルイーグルス】

選手数（現在）42						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
11	10	9	5	2	5	30	20	30	30	35	42

○加入対象学校名と児童数

つつじが丘小学校 463 **名**（25 **名**），**武蔵野小学校** 491 **名**（14 **名**），**その他**（3 **名**）

○チームの性格　自治会所属

○選手確保のために力を入れていること

＊選手のお友達への声掛け依頼，地域のお祭りや自治会イベントへの参加

＊指導者保護者同席の不要な飲み会はしない

○選手数増加・維持のために効果的な方法

＊自分の子どもが卒業してもチームへ協力を惜しまない雰囲気を作ること。＊選手の弟妹への声掛け。

○選手数減少の原因は

＊チーム活動以外の場所での指導者・保護者の振る舞い

＊野球で遊ぶ機会の減少

【昭島・光華グリーンズ】

選手数（現在）22						選手数推移					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
10	0	9	1	0	2	26	19	18	26	22	22

〇加入対象学校名と児童数　　昭島市立光華小学校 482 名，昭島市立中神小学校 432 名

〇チームの性格　　クラブチーム

〇選手確保のために力を入れていること

＊体験教室開催時には，ストラクアウトなどを取り入れて遊び感覚で楽しい時間を仲間たちと体験させる。

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

＊子供たちは，やはりお土産が大好きです。体験教室等の参加の子供には，その子が使用したボールを持って帰ってもらい家庭で話題にしてもらい家族で参加の検討をしてもらう。

〇選手数減少の原因は

＊子供の減少が第一要因と思いますが，今の子供は友達を呼べない子が多いのでは？

＊親御さんが団体競技に対して興味を持たない？

【昭島・田中パイレーツ】

選手数（現在）15(注 1)						選手数推移(注 2)					
6 年	5 年	4 年	3 年	2 年	1 年	2011	2012	2013	2014	2015	2016
0	5	5	4	1		21	18	16	14	17	15

（注１）人数は現在合同で活動している昭島ビクトリーも併せた合計人数です。

（注 2）2015 年は昭島フェニックス合同。2016 年は昭島ビクトリー5 年以下と合同。

〇加入対象学校名と児童数

2016 年現在の選手が通う学校：田中小 373 名，拝三小 560 名，玉川小 375 名，成隣小 376 名，共成小 304 名，明星小

〇チームの性格　　自治会，学校には所属していません。

〇選手確保のために力を入れていること

・チーム紹介のポスター掲示　　・野球体験会の開催　　・保護者による選手勧誘

・指導環境の向上(指導スタッフの確保や，指導内容の改善・向上など)

〇選手数増加・維持のために効果的な方法

・チームの存在のアピール(外から目に見える機会を増やす)。

・スタッフがやりがいを感じる野球環境づくり（チームの活性化，子供・保護者を引き付けることに繋がると考えています。）

・学校との協力体制を作る（学校に所属している訳ではありませんが，存在をアピールするために必要。）

〇選手数減少の原因は

・子供の人数の減少

・親の反対による（体験会を開催し保護者と話をすると，親が面倒だから，週末の家族の時間を大切にしたいから，習い事のかけもち　などで，子供が野球をしたくてもさせてもらえない事例は多々あります。体験会に来る子供達も水泳，剣道，サッカーなどスポーツの他，塾通いも忙しそうです。）

〇上部団体等への要望

・選手たちが楽しめるイベントに期待（体験，観戦なんでも良いです。一生懸命野球を頑張っている選手たちに，ご褒美を与えてあげる機会を作って欲しい。）

・指導者の育成機会の開催（以前，昭島市民球場でプロ OB による「指導者育成」に参加しましたが，とても新鮮で多くの事を学べました。）

〇その他

選手の育成は「野球技術」だけでなく，精神的な成長を促すことに時間を使っています。

子供だけでなく，保護者も含めて成長できればと考え活動をしており，活動内容に手ごたえは感じていますが，「勧誘」という意味で新たなメンバーにチームを見てもらう機会を作ることに苦労をしています。

きっかけ作りを他チームのアンケートで学べるとありがたいですね。

小学校学習指導要領における「野球」の消滅が学童野球に与えた影響

昭島少年野球連盟　会長　　福本道夫

戦後，学習指導要領が定められ，子供たちが誰でも等しく学習できる内容の基準となった。

細かいことは省略するが，こと野球に関しては，「ソフトボール」の名称で，戦後すぐの 1947 年（昭和 22 年）より小学校学習指導要領に「体育」の内容として取り入れられた。

そして，1949 年（昭和 24 年），1953 年，1958 年，1968 年（昭和 43 年）に改訂～実施された各学習指導要領では，その都度学習内容として取り入れられていた。

しかし，1977 年（昭和 52 年）になると，「ソフトボール」は消滅した。そして，1989 年（平成元年）になって体操の一部に「小さいボールを扱う運動」として，またボール運動の中で「ハンドベースボール」として再登場した。その後 1998 年（平成 10 年）に「ベースボール型の運動」として「野球」の形で再登場し，その後現在に至っている。

つまり，1977 年から 1998 年の約 20 年間，小学校では「野球型の運動」は学習内容として消滅に等しい状態であったわけである。一方，小学校で「野球」が実際に指導されてきたのかどうかについては，不明である。私は 1977 年以前から現在に至るまで指導が行われなかったケースがあったのではないかと推定している。それは，「体育」が教科書によって学習されるものでなかったことにも要因がある。

ところで，サッカーは 1958 年から，また，バスケットボールは 1977 年から（バスケットボールの基本型ともいうべきポートボールは 1947 年から）取り入れられ，現在に至っている。

野球の指導がおろそかになった原因の一つとして，全科目を教えなければならない小学校に女性教師の割合が増えたことも挙げられるのではなかろうか。「女性が原因である」という解釈をされると問題が生じるが，一般的に野球（小さいボールを投げて・捕って・打つ球技）を経験している女性が少ないことは間違いではなかろう。

私の推測だが，「野球」を指導できる教師が減少したことで，学習内容としての「野球」が消滅し，少なくとも 1977 年からの 20 年間の空白期間に「野球」を経験できなかった子供が大人になり，その大人が，自分の子どもとキャッチ―ボールをしないことで，「野球」は「するスポーツ」から「見るスポーツ」に変わってきたのだと推論している。

さて，子供人口全体の減少，そして，スポーツの多様化や，外で遊ぶ子供の減少も言われる今日この頃だが，私たちが住み暮らす昭島だけでなく，どこの地域でも野球人口の減少に悩んでいると聞く。

とは言え，野球だけをやっていればよいというわけではない。スポーツだけやっていればよいというわけでもない。何事もバランスよく行うことが身体的・精神的発達段階にある子どもによりよい影響をもたらすであろうことは衆目の一致することではなかろうか。

しかし，幼稚園や保育園の園庭で，サッカーまがいの「ボールけり」が行われているのを見るにつけ，小さいボールを投げる・捕る運動が行われていないことに不満を覚える。（日本人特有の？）手先の器用さは，小さいボールをコントロールすることによっても培われるはずだ。

「野球」型のスポーツは，決して難しいスポーツではない。自分が投げて・捕ることがうまくできないから指導できないわけでもない。

「野球文化」を再度育て直すには，学校教育・幼児教育における指導者養成が急務である。

アンケートのまとめと分析

学童野球チームの維持が困難なのは昭島だけではないことは，数年前から聞き及んでいた。

各チームの選手数の推移を見ると，地域の特性や各チームの努力によって，結果が異なることはあったにせよ，総じて，各チーム存続・維持に苦労する皆さんの悲鳴が聞こえてくる感じが伝わってきた。現在は潤沢な選手数を誇るチームにおいても，将来を見据えると，今から（選手の）少子化に備えなければならないとの危機感を感じたのではないだろうか。

詳細は，各連盟・各チームの回答を見ていただきたいが，各チームの回答について，おおよそ以下のようにまとめてみた。

◇選手数について

今回アンケートに回答いただいた 55 チーム中，各チームの選手数は，10 人台 12 チーム，20 人台 14 チーム，30 人台 15 チーム，40 人台 10 チーム，50 人台 4 チームだった。

また，選手数の推移は，（データ不足で回答不十分を含めて）この 5 年間で 100%以上を維持しているチームが 9 チームあり，数字的には健闘しているかに見えるが，その半数は 5 年前からチーム維持ぎりぎりの人数 10 人~20 人台であった。人数の増減が激しい学童野球チームではあるが，概して 20%～50%減少しているチームが多かった。

◇各チームが力を入れていることやチーム維持の効果的な方法について

ほとんどのチームで「野球教室の開催」や「父母の負担軽減（お茶当番や送迎など）」「勧誘チラシの配布」「Web サイトや FaceBook を使ったチーム情報の発信」などの宣伝活動にも力を入れており，「子供同士や親（特に母親）を経由した口コミでの選手集め」が効果的だと考えている。もちろん，募集対象は小学校低学年だが，最近はリトルリーグでも行われている T ボールでの野球体験教室・イベントも行われている。また，初期費用を抑えるために，野球用品の使い回しなども行っている。各チームとも，野球の楽しさ・面白さを伝えるきっかけを作るのに苦労していることが見て取れる。

また，ここまで選手数が減少してしまうと，チーム数維持のために行っている各チームのテリトリー（線引きがあいまいな場合もあるが）の考え方維持も難しい時期にかかっているように思える。

◇選手数減少の原因

「児童減」「サッカーをはじめ学習塾も加えた習い事の多様化」「親の負担が大きい」「初期費用が高額であること」のほかに，「野球ができる公園・遊び場の減少」が挙げられた。さらに，「親が野球を知らない。興味がない。危険なスポーツだと思っている」「子供が外で遊ばない」「ゲームが面白すぎる」という回答もあった。また，テレビでの野球中継が少なくなったことで野球に触れる機会が少なくなり，「ルールを知らない」親も増えている。概して，小学生の親世代に「野球と野球チーム」を理解してもらうのに苦労している姿が浮き彫りになった。

また，サッカーとの比較では，「国際試合が少ない」「親にサッカー経験者が増えた」「幼稚園でサッカーの講師を招いて指導している」という回答もあった。

◇上部団体への要望

圧倒的に多かったのが，どのような形にせよ「プロ野球の現役選手との触れ合い」だった。

また，サッカーとの比較では，「プロとアマ組織の結びつきを強くすることや野球界全体のシステムづくり」を提案する方もあった。

そして，「プロ野球や大学生，社会人野球選手による野球教室の開催」という要望も寄せられたが，「指導者を対象として講習会の開催」「公認指導員や公認コーチの制度確立」という要望もあった。さらに「野

球のできる場所の確保」は，通常の練習だけでなく，子供が遊びで野球のできる環境が狭められている現実を変えてほしいとの要望もあった。

また，東京都軟式野球連盟に対しては，合同チームの都大会出場を認めてほしいとの要望も寄せられた。女子選手の将来の活躍を推進するために「中学・高校での女子選手の登用」を要望する声もあった。

さらに，低学年（幼児期）からの野球体験を促すために「T ボールの大会を開催しては」との提案もあった。新しい発想では，「ケーブルテレビ（J:COM など）を利用して子供の野球を，地域の人に見てもらうように働きかけてほしい」という回答もあった（実際に実施されているチーム・連盟もあるようだ)。

◇最後に

今回のアンケート回答では，様々な考えや提案を知ることができた。勿論すべてを実現できるわけではないが，いろいろと貴重な経験や意見があった。

その中で「野球体験を目的とした下部組織を作った」立川市・立川レイズさんの活動に新鮮さを覚えたので紹介したい。

具体的には，月に 2 回・１回 2 時間程度の活動で，チームに加入することを前提としない組織をつくり，親の負担はスポーツ保険料以外無料とし，野球を体験してもらっていた。それだけにこの組織維持のためには，活動費や人的保障はチームの持ち出しとなるために苦労をされているようだが，初年度となる今年（2016 年度）からすぐに成果が表れているようだ。

あくまでも私見だが，野球を経験してこなかった親世代へ野球文化の植え付けをされている行為そのものではないかと思える。

東京オリンピックの競技種目として野球が復活した現在，「野球」を文化としてとらえなおし，次の世代に残していく活動も必要となるのではないだろうか。

（昭島少年野球連盟　事務局）

ＩＮＤＥＸ

（索引にかえて）

（各団体名・チーム名　敬称略）

（ページ）
・アンケート依頼文　３
・「学童軟式野球・チーム活性化アンケート」をまとめるにあたって　４
・各連盟（支部）の回答　４
　大田区城南，小金井，国分寺，調布，東久留米，武蔵村山，昭島
・各チームの回答　９
あきる野　９
　秋留台キングス，増戸少年野球クラブ
青　梅　９
　河辺ジャガーズ，ファイヤーホークス
小金井　１０
　小金井アトムズ少年野球クラブ，小金井ビクトリー，小金井三小メッツ，サンライターズ，
　緑小ユニオンズ，南小レッドイーグルス
立　川　１３
　上砂ファイターズ，ジュニアスターズ，立川メッツ，立川レイズ
多　摩　１５
　永山ペガサス
調布　１６
　杉森クラブ，調布サンライズ，調布ディアーズ，調布メンパース，ＴＯＨＯパイレーツ，
　緑ヶ丘ジャイアンツ，
西東京　１７
　泉ベアーズ，けやきスラッガーズ，東伏見ファイターズ，保谷ストロンガーズ，保谷ユニバース，
　ホワイトイーグルス，向台リトルライオンズ
羽　村　２０
　羽村ドルフィンズ
東久留米　２１
　ウエストキング，クラウン，久留米スターズ，滝山ジュピターズ，野火止コンドルス，
　八幡町スピリッツ，東久留米アストロズ，東久留米ハッピーズ
福　生　２４
　福生ヤングジャイアンツ，福生リトル・サンズ
瑞　穂　２５
　長岡モンスターズ
武蔵村山　２５
　青空，武蔵村山市アトムズ，グレートベアー，武蔵村山サンダース，新小鳩，隼，
　武蔵パンサーズ，ファイターズ，武蔵ライオンズ
昭　島　２９
　昭島ビクトリー，昭島美堀メッツ，昭島ヤングライオンズ，昭島リトルイーグルス，
　光華グリーンズ，田中パイレーツ
・小学校学習指導要領における「野球」の消滅が学童野球に与えた影響　３３
・アンケートのまとめと分析　３４
・ＩＮＤＥＸ（索引にかえて）３６